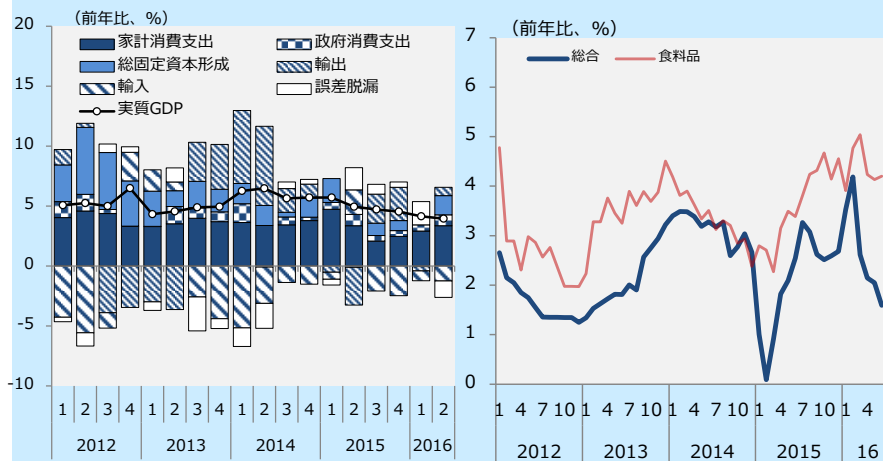


マレーシア：GDP（2016年4-6月期） —減速傾向が続くが、リスクは後退—

MRI Daily Economic Points
August 12, 2016

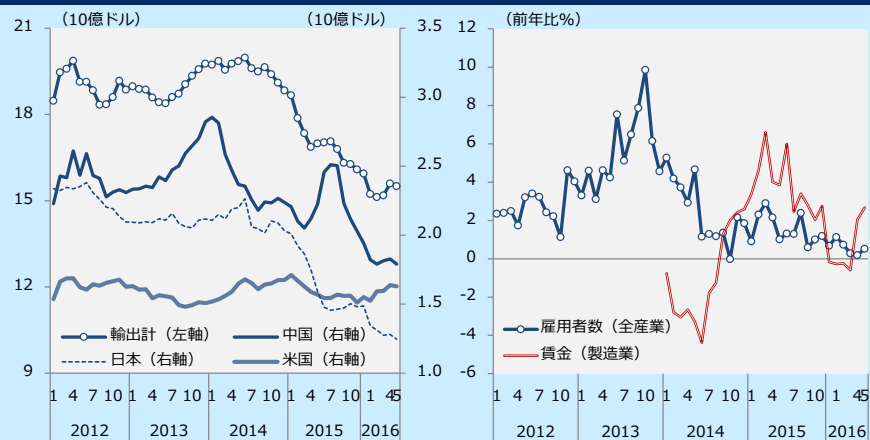
実質GDP

消費者物価



名目輸出

雇用



評価ポイント

今回の結果

- 16年4-6月期のマレーシアの実質GDPは、前年比+4.0%と前期(16年1-3月期：同+4.2%)から伸びが鈍化した。季調済み前期比でも+0.7%と前期(同+1.0%)から伸びが低下、成長の鈍化傾向は続いている。もっとも、消費や輸出がやや持ち直すなど一部に明るい動きもみられる。
- 消費は、緩やかに回復している。食料品価格の上昇が続くものの、物価上昇率の低下により消費者マインドは底打ちの兆しがみられる。
- 雇用環境は、雇用者数が前年比横ばい圏内で推移しているが、製造業の賃金がやや向上している。マレーシア政府は、3月以降、外国人労働者の新規雇用を凍結しており、産業界からは労働力不足の声が上がっている。
- 輸出は、前年比+1.0%と前年比プラスに転じた。名目輸出は、米国向けが回復基調となっているほか、中国向けがやや持ち直しているなど、下げ止まりの兆しがみられる。
- 金融市場では、①米国利上げ観測の後退、②原油価格の持ち直し、③政治不安の後退などを背景にリングgit高に転じており、株価の下落も一服している。③については、5月に行われた地方選挙で与党が圧勝、マハティール元首相のナジブ首相への退陣運動も沈静化するなど、先行きの懸念はやや後退しつつある。
- 中央銀行は、通貨高や物価上昇率の低下を背景に、7年ぶりに3.25%から3%に政策金利を引き下げており、緩和的な金融環境が国内投資を後押しすることが期待される。

基調判断と今後の流れ

- マレーシア経済は減速傾向にあるが、通貨安・株安が一服、消費者マインドも底打ちの兆しがみられている。
- 先行きは、中国経済の減速による輸出の下押し圧力は残るが、物価上昇率の低下や賃金上昇などを背景に、消費は緩やかな回復持続を見込む。外国人の新規雇用の凍結も解除する方向で検討が進んでおり、実質GDP成長率は17年にかけて伸びを高めると予想する。
- 今後のリスクは、①米国利上げ観測の高まりによる通貨安や、②ナジブ首相の政治献金問題の再燃など政情の不安定化があげられる。